

大学獣医学部の誘致に関する意識調査結果について

—愛媛県内高校1年生の進路に関する意識分析—

1 調査の目的

今治市は県下第2位、四国第5位の都市であるが大学がない。また、市内の大学進学率は、54.4%（H19.3卒、全国平均51.2%）と高いが、市内に大学がないため、毎年約1,000人の若者が進学のために市外に流出している。

このため、新都市地域への大学誘致を進めてきたところ、昨年、大学獣医学部の設置の申し出があった。しかし、獣医学部の定員は規制されているため構造改革特区提案申請を行い、文部科学省に対し、地域を限った規制の緩和を求めている。

提案理由は、「獣医学部の立地偏在の解消」と「教育の機会均等の確保」、なぜなら、獣医学部の入学定員の規制により、「四国の高校生が獣医学部を志望する場合は、遠隔地の大学に進学を余儀なくされ、経済的な負担も嵩むことから、東日本の高校生に比べ不利な状況にあるのではないか」と思われたからである。

そこで、愛媛県内の高校生を対象とした意識調査を実施した。

2 調査方法

- ① 調査対象 愛媛県内の全日制普通科及び農業関係科の全ての高校1年生
- ② 配布先 県内56高校(分校は本校で計数)の全日制普通科及び農業関係学科の1年生
- ③ 配布方法 各高校に調査票を郵送し、郵送又は直接回収
- ④ 調査期間 平成20年4月25日から5月12日まで
- ⑤ 回収結果 47高校6,923通を回収(内訳はフェイスシートの通り)
- ⑥ 回収率 71.0%

表 調査票回収結果のフェイスシート(全体)

注) ()内は農業関係学科

	高校数	人数	男子	女子	不明
合計	47(4)校	6,923(404)人	3,204(190)人	3,500(204)人	219(10)人

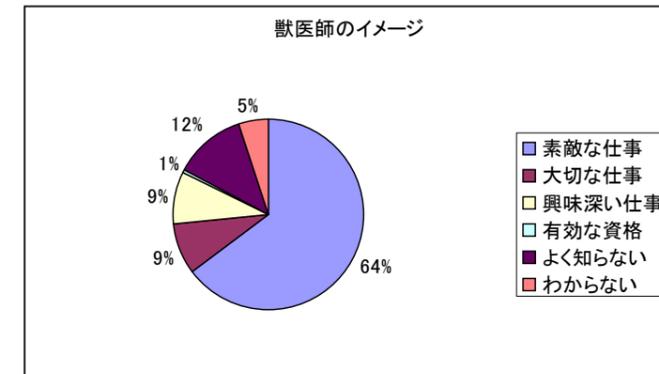
3 調査結果のまとめ

- 1) 獣医学部への進学の希望については、301人が志望しているが、その内71%（216人）の高校生が、「入試倍率」や「遠くの大学」理由で実際の進学は難しいであろうと考えている
- 2) 男女別の志望人数はほぼ拮抗しており、女性比率が半分近くに上っている。
- 3) 進路について、進学志望者は85%、その内、獣医学部の希望者は、99人（1.8%）である。全国の大学の入学総定員に対する獣医学部の定員率の約13.8倍に上っており、希望者が多い。
- 4) 進学先の選定条件の内、「経済的な理由」は14%、「自宅から近いこと」は4%に上っており、自分の興味がある大学を志望する一方で、偏差値や経済的理由も大きな要因となっている。
- 5) 「今治市への獣医学部の誘致が実現した場合」の進学希望は、「入学したい」が118人、「受験してみたい」が130人、「進路について考えてみたい」が789人と多い。
- 6) 今治市への獣医学部誘致が実現した場合のメリットのうち、「遠くに行かなければならなかった獣医学部が近くにできるので嬉しい」という回答は、「進学先の選択肢が増えるので嬉しい」という回答（24%）には及ばないものの、7%（451人）に上っている。

4 調査結果の分析

1) 獣医師に対する印象

県内の高校1年生の獣医師に対するイメージは、「動物病院などでペットの病気を治す素敵な仕事」が全体の約2/3を占め、「大切な仕事」「興味深い仕事」を合わせると約82%の高校生が好印象を抱いている。

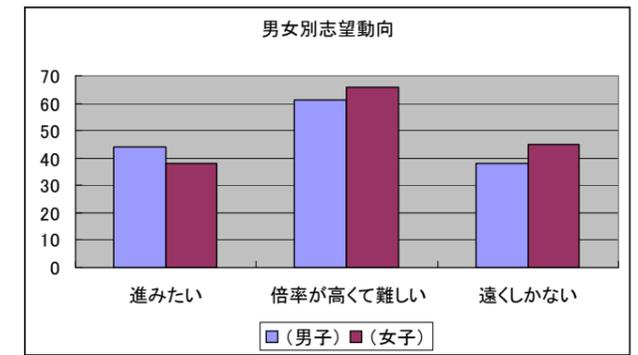
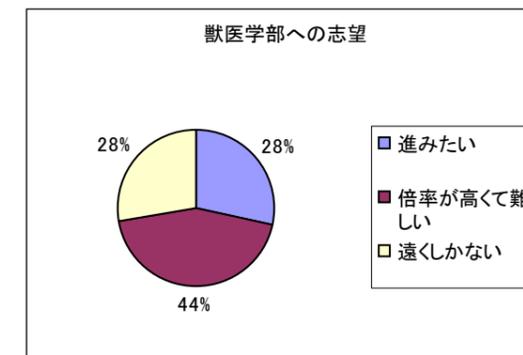


2) 獣医学部への志向の状況

獣医学部への進学の希望については、「よくわからない」（16%）、「獣医学部以外を志望する」（80%）を除く、301人（4%）が進学への志望意欲を見せている。

この301人の内訳を見ると、「獣医学部に進みたい」という回答が85人であるのに対し、「進みたいが倍率が高くて難しい」132人、「進みたいが遠くの大学しかないので難しい」84人と、進学意欲を見せている301人の内、71%（216人）の高校生が実際の進学は難しいであろうと考えている。

近くに大学がないために断念する生徒（84人）が進みたい生徒（85人）とほぼ同数になっていることは、四国ブロックにおける教育の機会均等が損なわれていることを裏付けている。



また、男女別の志望人数はほぼ拮抗しており、女性比率が半分近くに上っている。

男女別獣医師免許保有者数を見ると獣医師免許保有者は、34歳以下の年齢層で女性が男性を上回っており、また30歳以上の年齢階層では全て男性従事者数が女性従事者数を上回っているのに対し、29歳以下では女性が上回っており、獣医師の女性比率が年々高くなっている傾向が伺え、アンケートの結果は、この傾向がさらに続くであろうという推測を裏付ける結果となっている。

このことは、体力的に大型家畜を扱うことが不利な女性が獣医師の志望者の半数に上ることを示しており、産業系獣医師の不足がさらに悪化する要因として懸念される。

さらに、「進みたいが遠くの大学しかないのが難しい」という回答は女子が男子を上回っている。

(参考) 男女別獣医師免許保有者数

年齢	免許保有者				従事者					
	計	男	率%	女	率%	計	男	率%	女	率%
24～29	4,179	2,003	47.9%	2176	52.1%	3,385	1,662	49.1%	1723	50.9%
30～34	5,332	2,512	47.1%	2820	52.9%	4,058	2,147	52.9%	1911	47.1%
35～39	4,991	3,126	62.6%	1865	37.4%	3,904	2,681	68.7%	1223	31.3%
40～44	4,770	3,382	70.9%	1388	29.1%	3,789	2,891	76.3%	898	23.7%
45～49	5,007	3,944	78.8%	1063	21.2%	4,071	3,394	83.4%	677	16.6%
50～54	4,991	4,051	81.2%	940	18.8%	3,991	3,468	86.9%	523	13.1%
55～59	4,687	4,146	88.5%	541	11.5%	3,706	3,414	92.1%	292	7.9%
60～64	2,854	2,715	95.1%	139	4.9%	1,746	1,694	97.0%	52	3.0%
65～69	2,463	2,407	97.7%	56	2.3%	1,088	1,070	98.3%	18	1.7%
70～74	2,055	2,039	99.2%	16	0.8%	670	665	99.3%	5	0.7%
75～79	2,847	2,840	99.8%	7	0.2%	644	643	99.8%	1	0.2%
80～84	2,730	2,729	100.0%	1	0.0%	375	375	100.0%	0	0.0%
85以上	1,482	1,482	100.0%	0	0.0%	90	90	100.0%	0	0.0%

資料：獣医師法第22条届出より政策研究室において作成

平成19年5月に農林水産省がとりまとめた「獣医師の需給に関する検討会報告書」によると、四国地域は、全国9ブロックの中で獣医師が最も少なく、全国の獣医師のわずか2.4%しか四国で活動していない。

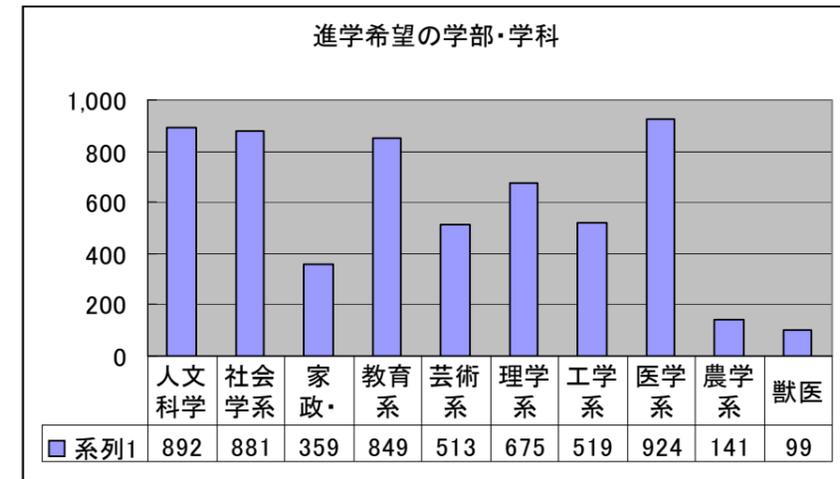
また、将来の獣医師の需給見通しでも四国地区は産業系獣医師の不足が顕著（2040年で必要獣医師の65.5%）で、小動物診療獣医師も全国9ブロックの中で最も供給が少ない（2040年で必要獣医師の83.9%）と予測されている。

今治市では、こうした産業系獣医師の不足は、近年の獣医系の大学への進学者に女性の割合が増えていることにより、体力的に大型家畜を扱うことが困難な女性獣医師が産業系以外の職域に就くことが要因と考えている。近年、獣医師の女性比率が上昇しており、体力を要する産業系獣医師はさらに不足することを予想していたが、今回のアンケート調査の結果は、今後も獣医師の女性比率の割合が高まるであろうことを裏付けており、本市の要因分析と一致している。

このため、産業系獣医師の不足の解消は、獣医師供給の底辺を拡大し、大型家畜を扱える男性獣医師の総数を増やさなければならないと思われる。

3) 進路の希望

進路については、大学等の高等教育機関への進学を志望する者は85%、進学を希望しない者は15%である。進学を希望する者の進路の希望は、次のグラフの通りである。



獣医学部を希望するのは、99人（1.8%）である。

現在の全国大学の入学総定員707,000人に対する獣医学部の入学定員は930人と、わずか0.13%しかないことを考えると、県内の獣医学部への進学希望1.8%は、定員率の約13.8倍に上っており、予想以上に希望者があるといえよう。

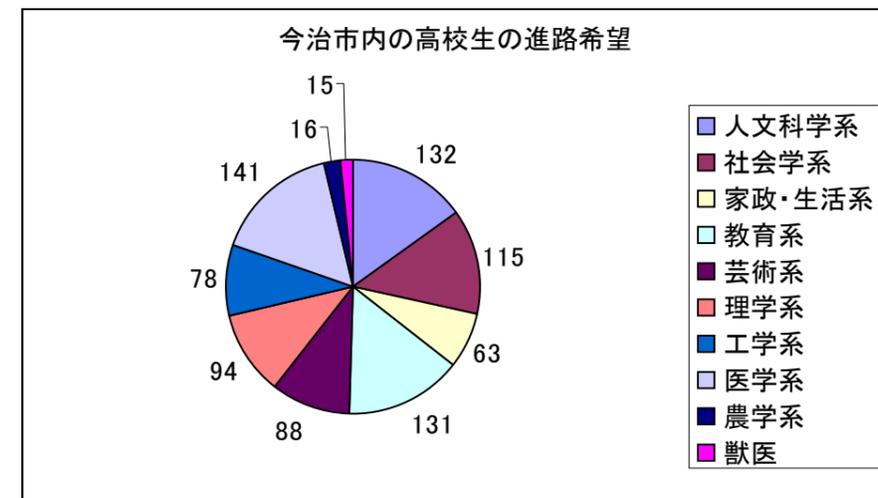
6月28日付け愛媛新聞朝刊に、「現状での進学希望者は1%にとどまった」との記述があったが、定員率を考慮すると「進学希望者は1.8%にも上った」と表記すべきであろう。

進路の希望の全体の傾向をみると、文系が6割（3,494人、59.7%）、理系が4割（2,358人、40.3%）と文系の進学先の人気が高いことがわかる。

また、文系では、人文科学系、社会学系、教育系、理系では、医歯薬系の人気が高い。

次に今治市内の高校生の進学希望学部をみると、全体の傾向と同様の傾向を示している。

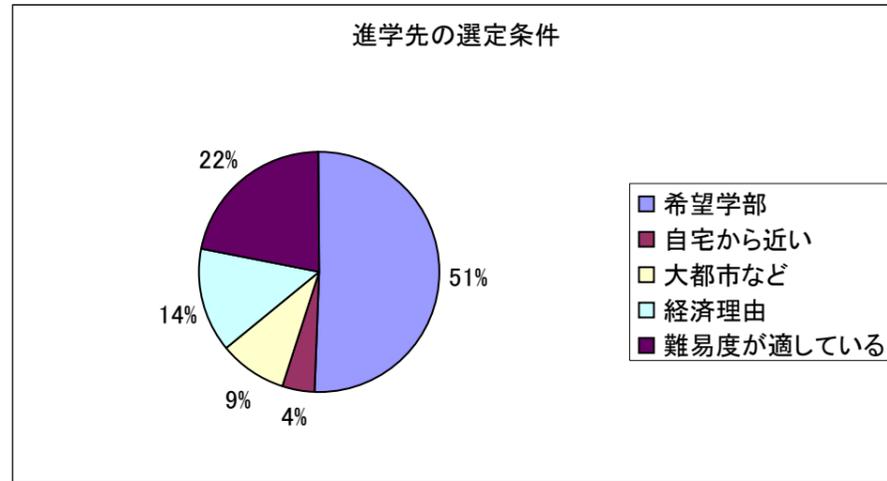
また、15人の高校生が、獣医学部を希望している。



4) 進学先を選定する条件

進学先を選定するための条件としては、「希望する分野の学部」が51%と半数を占めており、次いで「難易度が適している」が22%、「経済的な理由」が14%と続いており、「自宅から近いこと」という回答も4%に上っている。

自分の興味がある大学を志望する一方で、偏差値や経済的理由も大きな要因となっている。

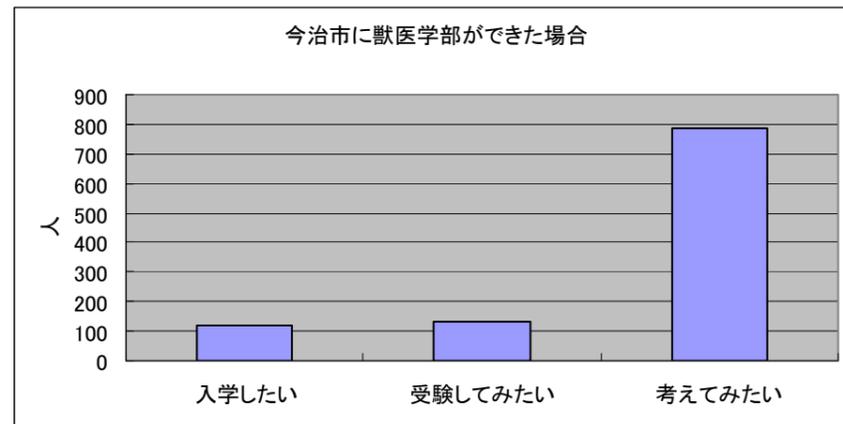


5) 今治市への獣医学部誘致が実現した場合の進学希望

「今治市への獣医学部の誘致が実現した場合」の進学希望についてたずねると、「関係ない」という回答が84%を占めるものの、「入学したい」が118人（1.7%）、「受験してみたい」が130人（1.9%）、「進路について考えてみたい」が789人（12%）に上っている。

「入学したい」という回答と「受験してみたい」という回答の合計人数は248人と、進路の希望で「獣医学部への進学を希望する人数」99人の2.5倍に上っている。

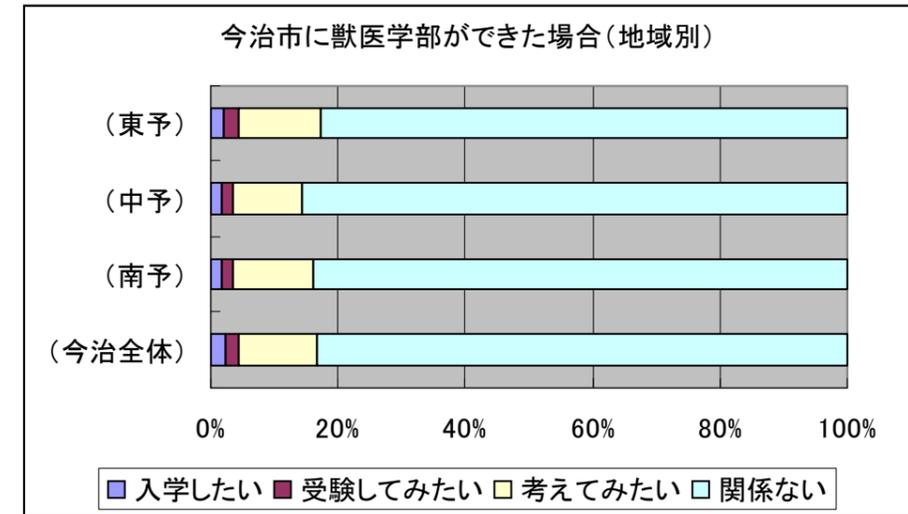
この結果は、地元で獣医学部が設置されることが獣医師養成系大学の立地偏在の解消や教育の機会均等の増進に結びつき、県内の高校生の獣医学部への進学需要の喚起に寄与するであろうことがわかる。



同様の質問に対する回答を地域別に比較すると下図の通りとなった。

『入学したい』という回答と『受験してみたい』という回答の割合は、東予、中予、南予ともほぼ同様の傾向を示している。

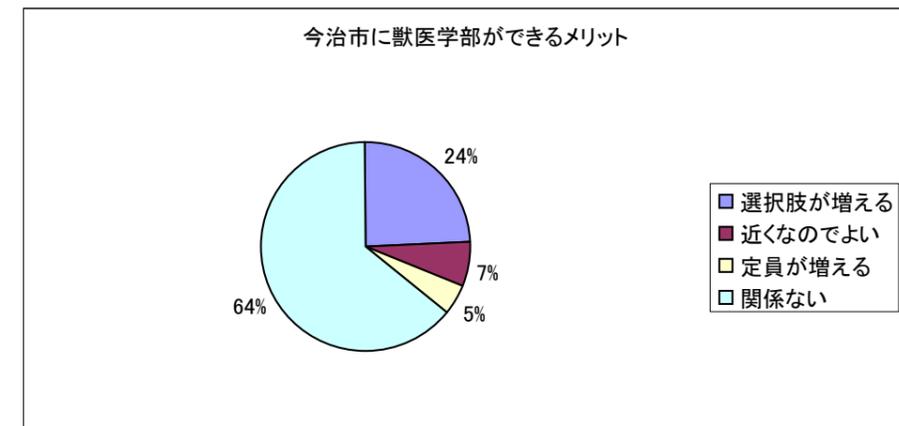
このことから、今治市に大学が誘致された場合は、今治市内や東予地域だけでなく、県下全域で同じように進学希望が高くなるということがわかる。



6) 今治市への獣医学部誘致が実現した場合のメリット

今治市への獣医学部誘致が実現した場合のメリットのうち、「遠くに行かなければならなかった獣医学部が近くにできるので嬉しい」という回答は、「進学先の選択肢が増えるので嬉しい」という回答（24%）には及ばないものの7%（451人）に上っている。

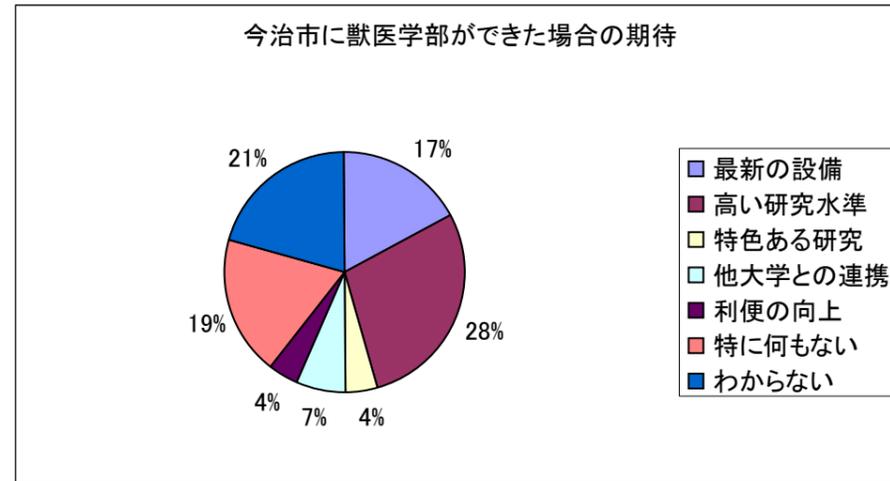
この回答数は、前問の『入学したい』という回答と『受験してみたい』という回答の合計人数248人の1.8倍に達している。



7) 今治市の獣医学部誘致への期待

「今治市に大学獣医学部ができるとしたらどのようなことを望むか」という問いに対する回答で最も多いのは、「高い教育水準の研究をして欲しい」が28%、次いで「最新設備を備えた立派な大学にして欲しい」17%となり、以下、「他の大学との連携」「特色ある研究の実施」と続いている。

一方で、「特に何も期待していない」19%、「わからない」21%という回答もあるが、半数近くの高校生が「最新の設備を備えた高い研究水準の獣医学部」を望んでいることがわかる。

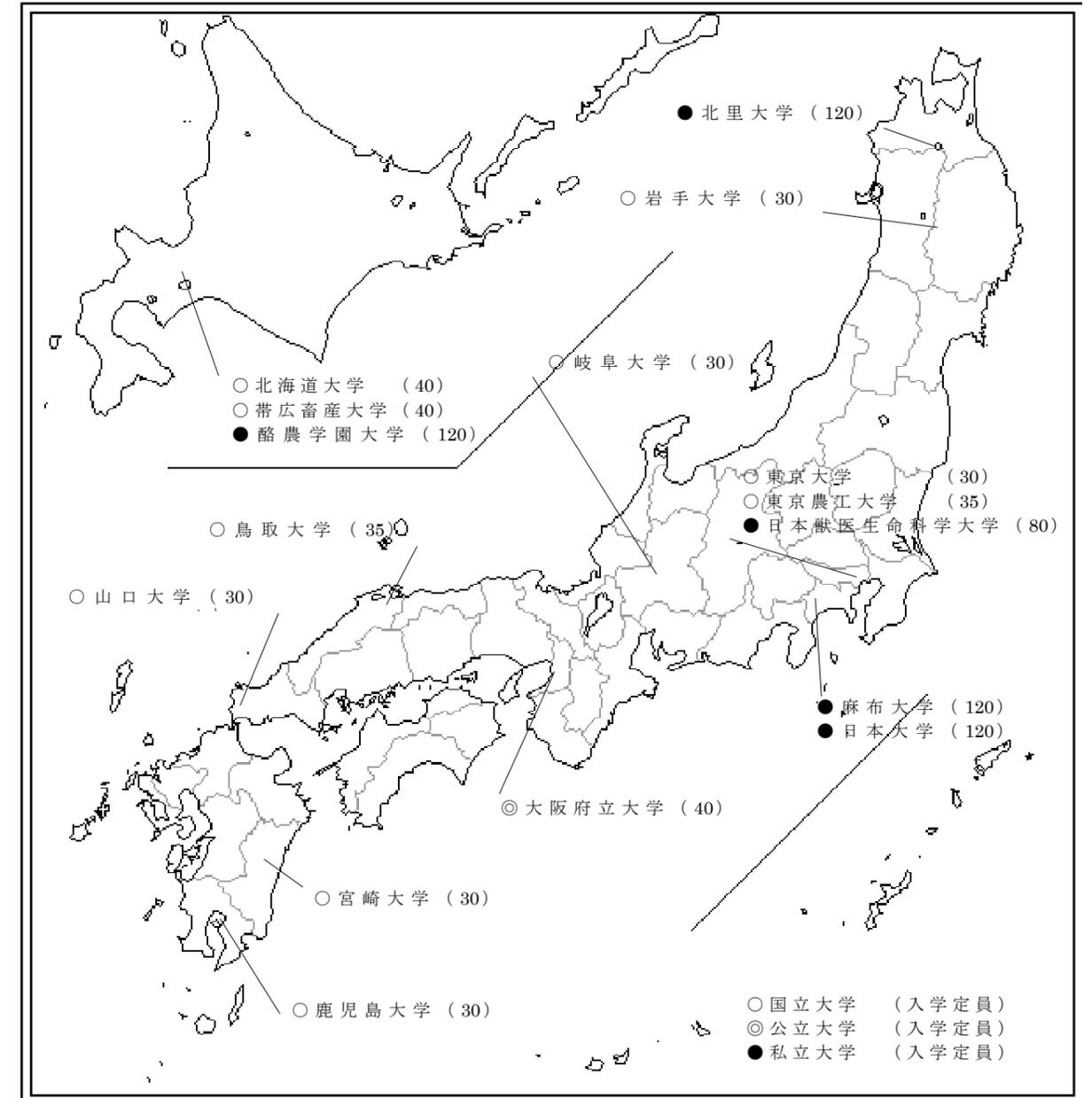


8) 代表的な自由意見

- ・ 獣医師に興味があったので、進路選択の道が増えてうれしい。
- ・ 四国に無かったので、できると良いと思う。獣医学部希望の人は可能性が広がると思う。
- ・ 動物から人に感染されると噂されている病気予防とか身近にいるペットや牛などの病気、牛肉などに関する食の安全についてなど、幅広い研究機関として機能して欲しい。
- ・ 狂牛病や鳥インフルエンザなどの動物から感染していく新しい感染症が増えているので、獣医学という分野はこれから大切になっていくため、獣医学部を増やして欲しいです。
- ・ 大学が出来ることによってたくさんの方が獣医を目指すようになれば良いと思う。
- ・ メリットは多くあるかもしれないけど、成功すればの話だし、デメリットも多いと思う。
- ・ 私立の獣医学校は授業料等の経済的負担が大きいので公立の学校を建てて欲しい。
- ・ 四国には1校もないので、実現できたらとても良いと思います。
- ・ 将来は動物園で働きたいと考えているので県内に獣医学部ができれば入学したい。
- ・ 定員が少なく入学が困難となり難易度が高くなっているので、大学が増えることで幅が広がることはいいことだと思う。
- ・ 「ツボカビ病」でカエルの絶滅が激しいと聞く。他にも、様々な病気によって死ぬ動物が多い。犬猫以外にいろいろな動物を救えるような人材を育ててほしい。
- ・ 多くの伝染病に対応できるような薬を作してほしいです。
- ・ 私は獣医師は少しだけ興味をもっています。自分自身、将来は医療関係の仕事に就きたいと思っています。なので、このアンケートを通して興味がより深くなりました。
- ・ 国内トップクラスの学部にしてもらいたい。

(参考) 獣医師養成系大学の偏在

獣医学科設置状況マップ



全国930人の定員の内、西日本は165人 (17.7%)、東日本は765人 (82.3%)
西日本の獣医学部(学科)は国公立のみで私学は一つもない。
四国ブロック、北陸ブロックには獣医師養成系大学が1校もない。